

# 入門期の国語教科書における読点使用傾向 —教科書会社5社の比較を通じて—

## 1 はじめに

□読点...1つの文の中で、文の組み立てや語句の切れ目を明瞭にするために打つ符号。

(小学館辞典編集部編2007, 原文縦書)

## 2 問題点

山田敏弘(2013:98)

【小学校低学年の国語教科書において】

「【前略】、「は」や「も」の次と、接続詞「すると」「ところが」などの次では、必ず「、」が打たれています。

【中略】。助詞の後では、「が」の後に「、」を打っている教科書が多くみられます。打ったり打たなかったりしているのが「を」「に」などの後です。」 → 妥当か? なぜか? 全ての教科書に該当するのか?

## 3 本研究の目的

- 山田(2013)の検討を通じて、国語教科書における読点使用の傾向を明らかにする

## 4 調査資料・調査方法

- 国語教科書会社全5社の入門期(小学校第1学年・上)にみられる読点を採集し、山田(2013)の指摘が妥当か、特に「は」「が」「を」「に」の使用実態(割合)を検討する(清田朗裕2019;印刷中,も参照)

## 5 調査結果 (国語教科書「小学校第1学年・上」にみえる助詞と読点の関係)

表1 教科書5社における「は」の用例数

出版社	総用例数	読点有	割合(%)
学校図書	85	73	85.9%
教育出版	62	58	93.5%
三省堂	65	49	75.4%
東京書籍	84	63	75.0%
光村図書	70	48	68.6%
合計	366	291	79.5%
平均	73.2	58.2	79.7%

表2 教科書5社における「が」の用例数

出版社	総用例数	読点有	割合(%)
学校図書	126	33	26.2%
教育出版	88	24	27.3%
三省堂	66	7	10.6%
東京書籍	86	8	9.3%
光村図書	97	18	18.6%
合計	463	90	19.4%
平均	92.6	18	18.4%

表3 教科書5社における「に」の用例数

出版社	総用例数	読点有	割合(%)
学校図書	57	9	15.8%
教育出版	47	10	21.3%
三省堂	54	5	9.3%
東京書籍	49	6	12.2%
光村図書	61	9	14.8%
合計	268	39	14.6%
平均	53.6	7.8	14.7%

表4 教科書5社における「を」の用例数

出版社	総用例数	読点有	割合(%)
学校図書	159	6	3.8%
教育出版	141	3	2.1%
三省堂	139	4	2.9%
東京書籍	129	4	3.1%
光村図書	112	5	4.5%
合計	680	22	3.2%
平均	136	4.4	3.3%

## 6 考察

- 「は」に読点が打たれている例は、80%程度 ← 山田(2013)の指摘を概ね支持する結果
- 「が」「を」「に」に読点が打たれている例は、20%以下 ← 特に「が」が、山田(2013)と異なる結果
- 「が」「を」「に」に読点が打たれるのは、述語句と離れている(隣接しない)場合(例1~3参照)

例1「が」:うさぎさんが、ちいさな いすを つくりました。(『しょうがくせいのかくご一年・上』三省堂)(原文縦書、以下同様)

例2「を」:きのうした ことや、あった ことを、ともだちに はなしましょう。(『しょうがくせいのかくご一年・上』三省堂)

例3「に」:もりの なかに、いえが あります。(『みんなとまなぶ しょうがっこうかくご 一ねん上』学校図書)

- ✓ 他動詞文や、倒置等の修辞技法が用いられている場合(清田2019)に、読点が打たれる傾向も
- ✓ 「(基本)文型」を意識させることが、読点指導に有効ではないか(日本記述文法研究会編2009等)

## 7 結論

- 格助詞(「が」「を」「に」と述語句とが隣接しない場合に、読点が打たれる傾向がある
- 教科書によって、読点が打たれている割合が異なることにも注意を払うべき
- 山田(2013)の記述は不正確であり、実態に即した記述を心掛けねばならない

### 【引用文献】

清田朗裕(2019)「国語教科書における読点の実態—小学校第1学年を対象にして—」『国語国文研究と教育』57, 熊本大学教育学部国文学会/清田朗裕(印刷中)「国語教科書における読点の実態(二)—三社の比較を通して—」『国語国文研究と教育』58, 熊本大学教育学部国文学会/小学館辞典編集部編(2007)『句読点、記号・符号活用辞典。』小学館/日本記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』くろしお出版/山田敏弘(2013)『改訂版 国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語』くろしお出版

※本研究の一部は、令和元年度研究活性化推進経費若手教員等研究助成経費(一般研究助成)「入門期国語教科書の実態に基づく読点指導法と教材開発」(所管コード31222124、研究代表者:清田朗裕)の助成を受けている。